

## 新たな仕組みの構築に向けた準備について(案)

2012 年 7 月 12 日

科学技術政策研究所

### 第 4 期科学技術基本計画の〈主要な柱・課題〉との関係

- |                              |   |  |                |
|------------------------------|---|--|----------------|
| ○グリーンイノベーションの推進              | → | それぞれ 1 課題ずつ検討中                           | 経済的・社会的波及効果の分析 |
| ○ライフイノベーションの推進               | → |  |                |
| ○科学技術イノベーション推進<br>に向けたシステム改革 | → | 「より多くのより優れたイノベーションを<br>日本が生み出すための人材システム」 | 諸政策を統合的に俯瞰     |

### 政策課題(例): より多くのより優れたイノベーションを日本が生み出すための人材システム

(目的) 統合的な政策を立案するためのポイントの抽出および手法の開発

(1 年目の実行計画・方法) 政策全体を俯瞰し将来的なリスクや効果を分析し予測するための枠組づくり

- ① イノベーションに関連するすべての人材(イノベーションの種を生み出す研究者から、産業や社会においてイノベーションを育て市場化する人材まで)を対象とする
- ② イノベーションの実現に向けて日本の弱点とされている“繋ぐ人材”に着目し、新しいキャリアパスの確立や人材の再配置を考案する。これにより、従来、様々なところでバラバラに存在していたイノベーションに関連する人々を繋ぎ、かつ活性化することで、多くのイノベーションを創出できる人材システムを構築する
- ③ 分析に当たっては、人口動態変化を基礎として、関連する人材の年齢構成について過去 20 年間のトレンドの分析、今後 20 年間の推計を行う。これに基づいて、将来、顕在化すると予想されるリスクのマッピングを含む「予測シナリオ分析」を実施する
  - 大学などで団塊の世代の退職により、教員のポストに空きが生じるか、また、そのポストに若手を供給し得るのか(人数や質の点も含めて)
  - 大学および企業などにおいて、世代交代に伴う知識の継承は大丈夫なのか
  - グローバルビジネスをリードできる人材は足りているのか・今後はどうか

(1 年目の成果) 人材の政策に関して、どのようなリスクや効果があるのか、過去の政策の成果はどこまで出ているのか等を俯瞰し、2 年目以降の分析のベースにする

(2 年目以降の実行計画・方法)

1 年目の結果を踏まえて、以下を実施

- ① “繋ぎ手”を経済的に成立する職業として確立させる仕組みづくり
- ② リサーチアドミニストレーターのような専門人材や学生を含むベンチャー起業家などのキャリアパスの分析を行い、需給バランス等から高度専門人材全体の再配置を検討する
- ③ 外国人の活用の最適化について検討する
  - 企業での外国人正規雇用(新卒・経験者)がイノベーション創出に与える効果を分析
- ④ 女性起業家など、女性の活用の最適化について検討する

\* 研究の成果は、適宜、内閣府や文科省の人材に関連する委員会等に提示してご意見をいただく

(実施メンバー) 拠点大学、NISTEP

\* この政策課題は、科学技術分野の専門性を特に要求しないのですべての拠点大学が参画可能